
2010年度 TOKYO FM 全社会議 社長挨拶 (代表取締役社長 富木田道臣)

株式会社エフエム東京は、4月1日(木)午後5時より、TOKYO FM ホールにて、2010年度全社会議を実施し、代表取締役社長・富木田道臣が、社員に向けて、以下の挨拶を述べました。



いま、私たちマスメディアは存亡の危機に立たされており、メディア再編成の時も間近という、強い危機感を持たざるを得ません。今後既存メディアは、組織の維持発展を持続できる局とそうでない局とに2極化していくのではないのでしょうか。

この状況下、総務省で「ラジオと地域情報メディアの今後に関する研究会」が発足すると共に、民放連では、NHKと民放によるラジオメディア再構築のための意見交換会が始まっています。

そういう中、IPサイマルによる新たな伝送路の開発、ならびにiPhoneやiPodなどの新たな聴取端末の登場により、ラジオメディアの話題が未だかつて無いほど活発化しています。これらの背景を大きなチャンスと捉え、如何に知恵を絞るか、のときです。

本日より、大型の4月改編がスタートしました。大いに期待していますが、これを期に、「感動を提供し、共感を得る」という当社の理念を一人一人が改めて本気で考えて頂きたいのです。

ますますメディアが多様化していく中、企業理念に基づいたステーション・アイデンティティをはっきりと確立することが生き残る道なのです。

今、企業は多くの人に多くの商品売るというマーケティングから、顧客を創り出し信頼関係を築いて永く買い続けてもらうというリレーションシップ・マーケティングへシフトを始めています。音声コミュニケーションは人の心に深く入り込み、他のメディアには無い、独特の共感性を創り出す事が出来ます。この共感性を核とし、次々と広がるコミュニティ形成力が、FMメディア最大の強みです。今こそこの特性が活きる時代なのです。

しかし、私は当社には一つの大きな課題があると感じています。つまり、リスナーや、一緒に仕事をしてくれる社内外の人とのインターフェイスに問題があるのではないのでしょうか。職業人としての当然の責任と配慮が足りず、個人の勝手な論理で行うことがトラブルを生むのです。私はこれを最大の課題と感じているのです。リスナーや一緒に仕事をしてくれる人あつてのTOKYO FMなのです。自分はそんなことはないと思わず、謙虚に反省しましょう。インターフェイスのあり方が変われば、リスナー、取引先、社内の同僚から信頼され、感謝されるようになり、仕事に充実感が生まれるはずですが、我々はメディア人です。人のせいにするのではなく、人と人との架け橋となり、無から有を生むインターフェイスを持ってもらいたいのです。

我々を取り巻く経営環境は引続き厳しいものがありますが、全社員一人一人が心の通い合うインターフェイスを持つことにより、必ず明るい未来が開けて参ります。皆で現状のメディアを創り変えるとともに新たなメディア創造に邁進して行きましょう。

(於:エフエム東京)